


NPO法人として認定農業者になり、障害者の力で地域の特産品であるイチジクとこんにゃくの認知を拡大したことで、市の特産品の栽培と製造の担い手として、地域農業をつくる一翼を担う。

基本情報

- 所在地：滋賀県栗東市
- 団体名：特定非営利活動法人 縁活（運営主体）、就労継続支援B型事業所「おもや」（事業所）
- 選定表彰：
滋賀県働く障害者を応援する農福連携モデル事業所（平成30年～令和4年）
- 主力商品：イチジク、トマト、こんにゃく、水稲、ぶどう etc.
- 取得認証等：平成29年 認定農業者



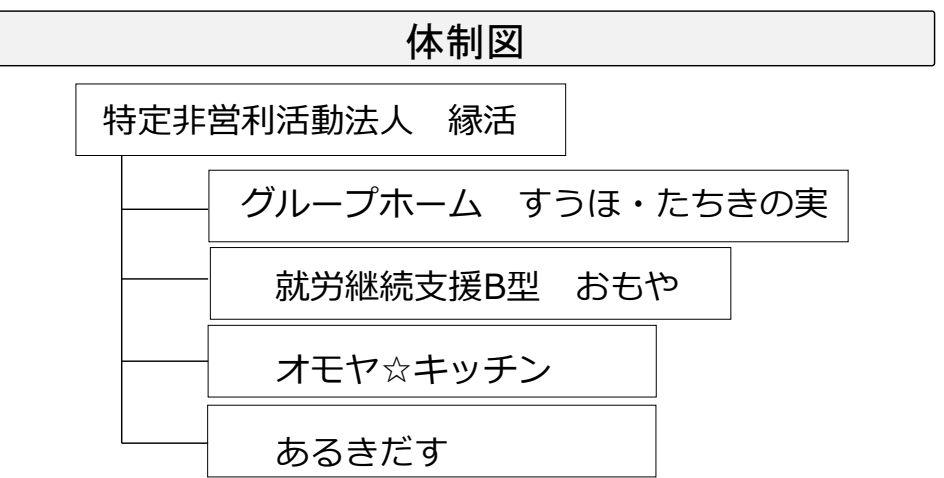
取組の概要

- 知的障害者を中心とする施設利用者が、平成30年にイチジクやこんにゃくいも等の生産を通年で行うとともに農山漁村振興交付金で整備した加工施設等により、こんにゃくを製造している。
- 開設したレストラン（オモヤキッチン）では、自然栽培で生産した野菜を提供するとともに、収益を増やすため、加工により作物のロス減らす。
- 福祉事業を営むNPO法人として認定農業者になるなど、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。令和2年度より栗東市の農業委員にも任命を受け、地域農業をつくる一翼を担う。
- 令和5年度より、山間部の古民家を改修し新たな拠点『あるきだす』を構える。

農産物加工施設

再生された荒廃農地

新たな拠点『あるきだす』



取組の成果

- 平成28年栽培開始のこんにゃくいもの生産量は、100kg（平成29年）から150kg（令和4年）へ増加。
- 平成26年に30aの荒廃農地を再生。その後も農地の再生を行い、現在（令和4年）、合計で180aと順調に農地面積が増加。

こんにゃくの栽培(kg)

H29	100
R4	150

所在地 ▶ 滋賀県栗東市霊仙寺1丁目3-24
 連絡先 ▶ TEL：077-598-5368 E-mail：omoya@aria.ocn.ne.jp
 ウェブサイト ▶ <http://enkatsu.or.jp>

【取組のプロセス】

人口が増加傾向の地区と過疎化が進む地区が併存する地域で、農福連携による地域課題の解決と地域共生社会の実現にチャレンジ

平成23年

きっかけ

地域特産の農作物の栽培、地元で根差した活動の実施を目指してNPO法人を設立

地域特産を活かした加工品製造に着手し、収益向上

- NPO法人縁活によって設立された就労継続支援B型事業所おもやで、栗東市が産地で、単価の高い果実であるイチジクの生産を開始し、徐々に経営規模を拡大。

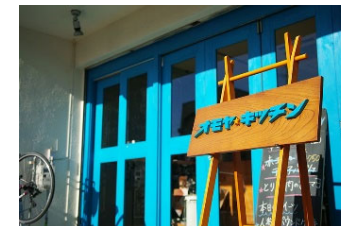


イチジク

平成27年

自家レストラン「オモヤキッチン」をオープン

- 野菜は12種類もの多品種を少量生産することで、直売所での販売品目を増やして販売。
- 作物のロスを減らして収益を増やすことを考えたレストランを開設。



オモヤキッチン

平成30年、子どもとごんにゃくいも植え付け体験や収穫・加工体験

平成29年

福祉事業を営むNPO法人として認定農業者へ

- 荒廃農地を再生した約2haの田畑で、イチジク（ハウス4棟）のほか、自然栽培による水稲とトマト等の野菜（ハウス4棟）、ごんにゃくいもを栽培しており、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。
- 令和2年度より栗東市の農業委員の任命を受け、地域農業の維持・発展に向けた一翼を担う。
- 栗東市内の中山間地域の活動を広げるため「栗東市農のある暮らし協議会」を設立しフォレストマーケットin成谷を年2回定期開催。



自家生産の野菜

令和元年

平成30年「農山漁村振興交付金」を活用して、特産品である「栗東産ごんにゃく」の製造等のための施設と休憩所を整備

今後の展望

地元住民参加型の取組により、地域課題に対応

- 栗東産ごんにゃくを自社の加工施設で引き続き製造、販売していく。
- 栗東の金勝地域にある古民家を改修し新たな拠点（あるきだす）を開所。子ども達とごんにゃく、味噌、醤油などを作る体験の場を作り、『農』と『食』を通じて、人と人の関係をつくる新たな集落の居場所となること目指す。



利用者による水稲収穫風景

農福連携で農作物の栽培のほか、養鶏と養蜂に取り組んでおり、施設利用者一人ひとりの成長を重視した就労機会を提供することで一般就労につなげる仕組みを構築。養蜂では官学と連携して商品開発なども展開。

農林水産業経営体

滋賀県
湖南市

基本情報

設立:H29年 / 農福連携取組開始:H29年

概要

主力商品

(農作物)卵、しいたけ、下田なす、弥平とうがらし
(加工品)蜂蜜、はちみつマスタード

特徴的な取組

自然農法、6次産業化、スマート農業

体制図

2017年5月～2021年5月までは株式会社チャレンジファームが障がい者を直接雇用していましたが、2021年6月に就労継続支援B型事業所「NPO法人こけっこ湖南」設立後は、2社で連携しながら農福連携を行っている。

住所:滋賀県湖南市針1380番地

TEL: 0748-72-4700

Mail: npokokekko@gmail.com

URL: <https://www.challenge-farm.com/index.html>

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

きっかけ

H29年

社員の親族に障害者がおり周囲から支援を受けた経験から、障害者等が自信を持って働けるためのサポートをすることを目的に地元の養鶏場を引き継ぎ、農福連携の農園として設立。

人を耕す

- 利用者一人ひとりの成長を重視し、独自に作成した能力査定表による評価を年1回実施。
- 利用者本人と保護者とともに課題改善方法を考えることで、確実にスキルを積み上げ、一般就労へのステップを着実に歩む仕組みを構築。
- 屋外・屋内の多様な作業を用意することで、障害など多様な背景を持つ人々が働ける環境を整え、それぞれの特性に応じた就労機会を確保。

取組

地域を耕す

- 廃止する養鶏場の事業を引き継ぎ、300羽から養鶏を再開。現在は2,000羽規模へと拡大し、地産地消の推進など地域に根差した生産基盤を確立。
- 伝統野菜の弥平とうがらしの種の保存や鶏の餌としての活用、また加工品の開発をするなど地域資源の価値向上を図る。

未来を耕す

- 他作業所との連携により、鶏糞と肥料を組み合わせた「プレミアム肥料」の開発や6次産業化にも取り組む。
- 養鶏・養蜂・6次化商品の生産はNPO法人こけっこ湖南に全面委託し、地域の就労支援の場と連携した事業モデルを構築。

成果

平均工賃月額	障害者数	売上高(卵)	売上高(養蜂)
10,000円(R2) →11,500円(R6)	5人(R2) →7人(R6)	1,299万円(R2) →1,528万円(R6)	100万円(R2) →161万円(R6)

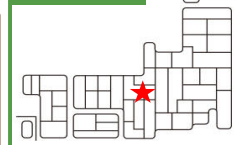
- 能力の高い利用者を主任クラスとして育成し、通勤や原動機付自転車免許取得にも挑戦することを促し、自立心を育てる。
- 様々な人々が互いを認め合い支え合う環境を整備し、賃金工場やステップアップの機会が増加や、誰もが安心して働ける職場環境を実現。
- 利用者の中から障害者枠で一般企業への就職を実現。

滋賀県立長浜北星高等養護学校(滋賀県長浜市)

福祉系列高校・保育園など地域との連携により花苗や野菜を栽培し、販売することを通じて地域との交流を行い、将来の就労や社会的自立に必要なスキルや主体性を育成。

特別支援学校

滋賀県
長浜市



きっかけ

H23年

R2の「企業の知見を活かした教育研究会」を契機に、(有)辻種苗との連携が始まり、本校の「園芸」授業で技術指導を受けるとともに、校外学習先として協力を得ている。

人を耕す

- 花苗や野菜の栽培を通して、一人ひとりの「根気強さ」と「やり抜く力」を育成。
- 自分の手で育てた苗が大きく育ち、鮮やかな花を咲かせる姿を目にすることで、生徒は努力が形になる喜びを実感。
- 発表会や販売会で地域の購入者から感謝の言葉を掛けられることで成功体験を積み重ね、将来への就労や自立へと繋がる基礎的な力を育成。

取組

地域を耕す

- 学校内にとどまらず地域とのつながりを広げることを重視した園芸活動を行っており、地域の消防署や警察署との交流も実施。
- 隣接する保育園や長浜北星高校(福祉系列)との連携も進め、さつまいもの栽培や収穫を園児と一緒にを行う活動を実施。

未来を耕す

- 園芸活動は単に農業技術を学ぶ場ではなく、生徒の将来を見据えた「生きる力」を育てる教育活動として実施。
- 販売会や交流活動を通じて得られる「人に喜んでもらえる経験」は、生徒の自己肯定感を高め、働く意欲を育てる原動力に繋げている。

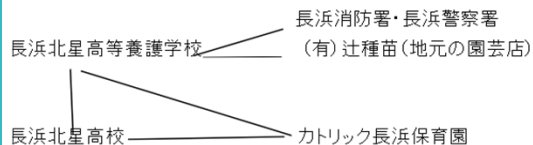
基本情報

設立:H18年 / 農福連携取組開始:H23年

概要

主力商品
(農作物)花苗、さつまいも

体制図



受け入れている者

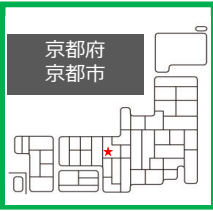
身体障害	非公表
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

障害者数	ビニールハウス	農地面積(畑)
9人(R2) →16人(R6)	0.3a(R2) →0.3a(R6)	6a(R2) →6a(R6)

- 実際に社会と関わる体験を積み重ねることで、生徒は自分の役割や責任を自覚し、将来の自立に向けた力を強めている。
- 販売会で接客や会計を生徒が実施することで、社会に即したスキルを幅広く習得。
- 地域の一員として役割を果たす喜びを知り、地域社会に根ざした人材へと成長。

住所:滋賀県長浜市地福寺町3番72号
TEL: 0749-62-0930
Mail: st24242797@ms.pref-shiga.ed.jp
URL:https://www.hokusei-sh.shiga-ec.ed.jp/



国産原料100%、原材料生産・製造・販売まで100%福祉事業所が行う「100%ノウフク連携ビール」を目指し、全国連携による原材料調達や6次産業化で収入の安定を図ることで、障害者の工賃向上につなげている。

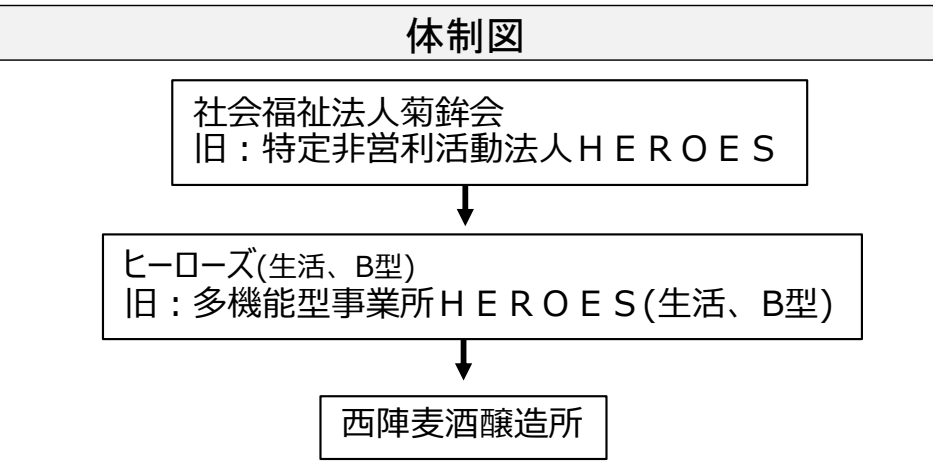
基本情報

- 所在地：京都府京都市
- 活動地域：都市的地域
- 団体名：社会福祉法人菊鉾会ヒーローズ
旧：特定非営利活動法人HEROES
- 選定表彰：
 - ・ノウフク・アワード2020審査員特別賞
 - ・インターナショナル・ビアカップ2020 銅賞（主催：日本地ビール協会）
 - ・ジャパン・グレートビア・アワーズ2022 金賞（主催：日本地ビール協会）
 - ・全国地ビール品質審査会2024 優秀賞（主催：全国地ビール醸造者協議会）
- 主力商品：麦、ホップ、ゆず、茶、米麴
- 取得認証等：－

取組の概要

- クラフトビールの醸造及び販売に当たって、強度行動障害者（自閉症）をはじめとした障害のあるメンバー25名で、ビールの充填、ラベル貼り等を行う。
- 原料は国産にこだわり、大麦は群馬県、ホップは宮城県、ゆず、お茶の葉は京都府の農家へ生産を依頼。
- 障害者が作業しやすいよう視覚的に理解できるマニュアルを活用し、ラベル貼りや醸造作業等、障害者の作業工数を増やした作業内容となるよう工夫。

ビールの醸造作業 発酵タンク ラベル貼り作業



取組の成果

- 障害者の年合計工賃も19千円(H29)から、2,310千円(R5)へ大幅に増加。
- ビールの出荷量は、開始当初の1,700% (H29)から、19,052% (R5) に増加。

工賃（年合計、千円）

年度	工賃（千円）
H29	19
R5	2,310

所在地 ▶京都市上京区大宮通今出川下る薬師町234
 連絡先 ▶TEL：075-415-4646 E-mail：nishijin-beer@kikuhokokai.or.jp
 ウェブサイト ▶http://nishijin-beer.com/

【取組のプロセス】

平成25年

強度行動障害者の通所先や適切な支援の確保のほか、重度障害者に仕事を提供できる事業所設立

きっかけ

強度行動障害者（自閉症）の通所先確保を目的に生活介護事業を開始し、重度障害者でも仕事を提供できる事業所とするため、クラフトビールの製造を開始

生活介護事業の開始

- 開所の目的は、自閉症のいわゆる強度行動障害といわれる方々の通所先を増やすことで、適切な支援を受け安定して通所できるようになった際に、居場所ややりがいを提供する役割が必要であったことから生活介護事業を開始。

平成26年

醸造所の設立による安定収入で、障害者の賃金向上、地域とのつながりによる地域生活支援を目指す

生活介護事業所の授産科目として西陣麦酒醸造所設立

- 2酒類製造免許(ビール・発泡酒)を取得しクラフトビールの醸造と販売を開始。
- ビール原料は、ほぼ輸入品である中で、「国産原料100%かつ、原材料生産から製造、販売まで100%福祉事業所が行う、100%ノウフク連携ビール」を目標に活動。

平成29年

原材料の作付面積は、大麦で開始当初の10aが1haへ年々増加

生活介護から多機能型（生活・就労B型）へ

- 農業と福祉の連携をイノベーションするように活動。
- 作業内容は、事務作業、PC入力や資料作成、発送作業、リネン作業のほか農作業を行う。
- 令和4年に法人格を社会福祉法人菊鉾会に変更し、令和5年に京町家工場へ移転リニューアル

令和元年

農業関係者の広がりにより、農地所有者からの関心も高く、休耕地の活用につながる

原材料の100%国産化を目指す

- ノウフクをさらにオープンにし、プロジェクトチーム化などのイノベーションにより商品価値を高めていく。
- 原材料の国産化は製品の一部にとどまっているため、原材料確保のために生産できる事業を増やすことと、副原料となる農産物（柑橘類など）も増やしたい。
- 障害者が本当の意味で、地域で役割を得て、一住民として対等に存在し、豊かに生活すること目的に行動していく。

今後の展望



事業所外観



タンクでビール醸造中



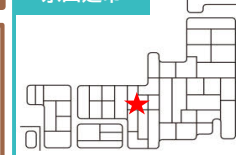
作業スペースの様子



ビールの発表及び説明会

障害者が「支援される側」ではなく「地域をつくる側」になる未来を目指し、荒廃農地を活用して万願寺とうがらしやハーブを生産・加工・販売するなど、「農業」を主軸とした取組を進める。

福祉事務所

京都府
京田辺市

きっかけ

R元年

「障害者が活躍できる仕事」として「農業」を軸とした取組を検討した際、障害者が「支援される側」ではなく「地域をつくる側」になる未来が見えた。

人を耕す

- 「福祉は地域に混ざりあうもの」という思いを持ち、地域の方々との話し合いを定期開催。
- 美味しい作物を生産・販売することで、工賃を高くでき、地域課題である荒廃農地の活用に寄与する。
- 畑作業と、室内作業の充実を図るため、ハウス整備と併せて、6次産業化を進めている。

地域を耕す

- ハーブを使用したスイーツやドリンクを提供する「三休カフェ」の運営を開始。
- 荒廃農地を活用して生産した万願寺とうがらし、ハーブ等を、JAや道の駅、飲食店に出荷。
- 野菜が入場料の音楽イベントや地域の大学と協働したイベントの開催。
- 民間企業等と連携し、ローゼルを用いたビールの開発を行う。

未来を耕す

- 障害者が「なりたい姿」に近づき、「やりたいこと」ができるようになる。
- ローゼル及びその加工品の販路拡大などにより、工賃向上を目指す。
- 地域の大学や地域関係者と連携したイベント等を通じて、地域との連携深化を図る。
- もっと働きたいと思った人が一般就労に挑戦できる「三休」を目指す。

取組

成果

平均工賃月額

6,000円(R2)
→16,000円(R6)

障害者数

18人(R2)
→27人(R6)

売上高

250万円(R2)
→1,400万円(R6)

農地面積

0.2ha(R2)
→1.5ha(R6)

- 重度の知的障害者の得意なことやできることに着目し農作業を組み立て直すことで、彼らの役割をつくり仕事づくりを創出できている。
- R4年度のJAへ万願寺とうがらしの出荷量は前年対比2倍(約3トン)を達成。
- 民間企業や飲食店と共に開発したローゼルを使用したビール「THANK YOU FOR THE MUSIC」はジャパングレードビアアワーズ2022銀賞を受賞。



万願寺とうがらしの収穫



ハーブティー作り

基本情報

設立:R元年 / 農福連携取組開始:R元年

取得認証等:認定農業者(R6)

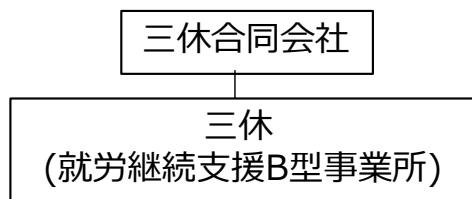
主な選定表彰:福祉未来価値創造大賞2020銀賞 等

主力商品

(農作物) 万願寺とうがらし、ハーブ、ベビーリーフ
(加工品) ハーブティー、ローゼルを使用したビール

概要

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

住所:京都府京田辺市大住池ノ谷45-1

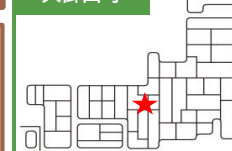
TEL:0774-66-2162

Mail:sekoguchi@3-kyu.com

URL:https://3-kyu.com/

障害者目線の職場環境や作業手順に配慮し、九条ねぎをメインとした多品目の野菜の生産に取り組むとともに、障害者や就労困難者の雇用、就労支援にも積極的に取り組む。

農林水産業経営体

京都府
久御山町

きつかけ

H
29年

福祉サービス事業所から試行的に農業技術を習得したいとの申し出があったことから、施設外就労として連携を開始。

人を耕す

- 有期実習型訓練制度を活用し、責任感ややりがいを持って仕事をしてもらえるよう工夫。
- 障害者職員が企業在籍型職場適応援助者の資格を取得し、当事者でありながら若手障害者職員の援助を実施。
- 美術能力の高い障害のある社員が、商品POPやデザインを担当、農作業マニュアルの作成。

地域を耕す

- 地域の加工業者や販売者と連携し、規格外野菜を活用した加工品の生産し、収益向上や廃棄ロスの削減へ。
- 地域の社会福祉協議会が主催する認知症カフェ利用の高齢者や身体障害者等に対し、車椅子や手押し車でも収穫体験ができるよう配慮。

未来を耕す

- 農福連携の取組についてPRし、販路の拡大を図ると共に、障害福祉サービス事業所とのコラボ商品(加工品)を開発、ノウフク JAS やGAPの取得を目指す。
- 障害等のある社員が、支援を受ける立場から支援する立場へキャリアアップを図り、農業分野でのロールモデルとして、他の農業者や地域での農福連携の推進を目指す。

取組

成果

基本情報

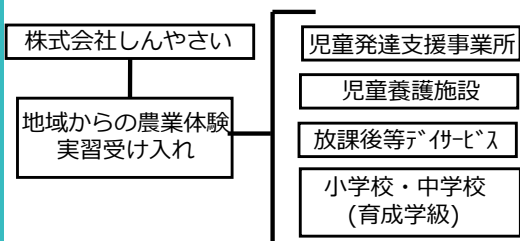
設立:R4年 / 農福連携取組開始:H29年(個人)
取得認証等:認定農業者(H29年)、京都はあとふる企業認証等
主な選定表彰:京都府障害者雇用優良事業所表彰(令和5年度)
優良勤労者表彰(令和5年度)等

概要

主力商品
(農作物) 九条ねぎ、長なす、金時人参、聖護院大根、
聖護院かぶ、新京野菜等の地域伝統野菜
(加工品) 規格外野菜を活用した加工品

特徴的な取組
当事者がジョブコーチ・農福連携技術支援者

体制図



住所:京都府久世郡久御山町西一口新道北46

TEL:075-682-8622

Mail:info@shinyasai.kyoto

URL:https://www.shinyasai.kyoto/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

実習等受入人数

128人(R4)
→145人(R6)

障害者数

2人(R4)
→2人(R6)
[直接雇用]

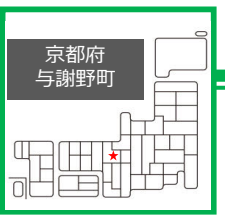
栽培品目数

23品目(R4)
→29品目(R6)

農地面積

3ha(R4)
→3.5ha(R6)



- 障害者等が自身の経験を活かして、障害者雇用セミナーやシンポジウム、ニート・ひきこもり支援の交流会等で積極的に登壇、体験談等を話すことで様々な業種での理解が深まり、多様な人々が働きやすい職場環境の創出につながっている。
- 地域生産者の伝統野菜廃棄品も仕入れ、加工することで地域の伝統野菜を守ることや、他の生産者の収益向上に貢献。
- 近隣の荒廃農地を新たに借り受けて規模拡大が図られ、新たな品目を作付し収益が向上。
- 京都府の取材を受け、マンガのモデルとなり農福連携啓発に貢献。



規格外品に着目した農産加工による地域活性化として、地域の農業者から規格外品を受け入れて、農産加工品を製造し、その加工品を農家に売り戻す活動や、買い取って自主製品として販売する活動を実施。

基本情報


- 所在地：京都府与謝野町
- 団体名：社会福祉法人よさのうみ福祉会（運営主体）、就労継続支援B型事業所「リフレかやの里」（事業所）
- 選定表彰：
平成22年 厚生労働大臣賞受賞(加工品)
- 主力商品：九条ねぎ、ばれいしょ、かぼちゃなどの野菜etc.
- 取得承認等：－

未利用規格外の農産物

取組の概要

- 社会福祉法人よさのうみ福祉会が運営する就労継続支援B型事業所で、施設利用者16名が、野菜生産と農産加工、パン・ケーキ製造に通年で取り組む。
- 近隣の農業者をはじめ、府外の農業者等から広く、主に規格外の生産物を預かり農産加工品を製造、その加工品を農業者に渡す活動を実施。これにより、農産物の付加価値を高め、障害者の工賃向上に貢献。また、食材廃棄の減少にもつながっている。
- 農地3.6haにおいて、九条ねぎ、ばれいしょ、かぼちゃなどの野菜をハウス6棟と露地で栽培（令和5年）。

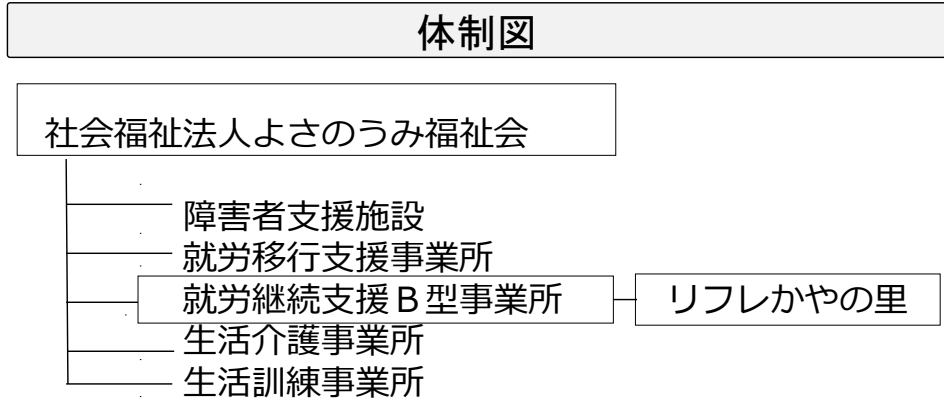




農産物加工場

農産物加工場の様子

農産物加工品



取組の成果

- 就労継続支援B型事業所利用者の平均月額工賃は最高約25,980円(令和5年)（京都府平均は約16,749円(令和3年)）
- 農産物加工品の売上高は、年間約2,300万円（令和4年）を計上。

京都府平均との月額工賃の違い（千円）

京都府平均(R2)	16
リフレかやの里(R5)	25

所在地 ▶ 京都府与謝郡与謝野町字金屋1730番地
 連絡先 ▶ TEL : 0772-43-1730 E-mail : refre@yosanoumi-fukushikai.or.jp
 ウェブサイト ▶ <http://refre.yosanoumi-fukushikai.or.jp/>

【取組のプロセス】

昭和55年

障害のある人の将来の生活の場の整備・充実を図るため、社会福祉法人設立。

きっかけ

地域特産の農作物の栽培、地元で根差した活動を開始

休耕田を使った農作物栽培などの事業

- 事業で得たヒントをもとにそのノウハウを生かし、規格外の農作物を使った加工品製造の事業をはじめた。

平成23年

規格外品を活用し、食材廃棄の減少を実現。

農産物加工場で、ジュースやジャムなどの加工品を製造している

- 自社で生産した野菜の規格外品に加え、外部の農業者から受け入れ、漬物、ジュース、ジャム、ソース、缶詰などを製造し、当該農業者が独自のブランドで販売。また、農業部門では、野菜を学校給食の原料としても安定的に販売。



農産物加工場

障害者就労継続支援事業の事業指定を受けており、地元の障害者の雇用創出に貢献している。

厚生労働大臣賞を受賞を契機に飛躍

- 農産加工品は、厚生労働大臣賞の受賞を後押しに地域でも一般に販売されるようになり、福祉施設の利用者の工賃の向上にもつながる。



農産物加工の様子

この取組は、生産者、加工品製造に携わる福祉施設の利用者、消費者による連携により、地産地消の農福連携による地域活性化のモデルとなっており、メディアでも取り上げられている。

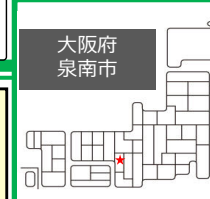
今後の展望

地域農業の活性化に貢献

- 事業所だけではまだ余力があるため、近隣農業者において、施設外就労として農作業も実施。ねぎの定植や草刈り、野菜の出荷作業などを通じ障害者が農業者と触れ合うことで、地域農業の活性化にも貢献。



農産物加工品



特例子会社として、農地所有適格法人となり、高度な機械の導入による養液栽培を実施。難しい判断は機械を活用して効率化を図りつつ、農産物の安定的な生産を実現。

基本情報

- 所在地：大阪府泉南市
- 団体名：ハートランド株式会社
- 選定表彰：
 - 平成21年「大阪府ハートフル企業顕賞
ランプのともしび大賞」
 - 平成26年「ディスカバー農山漁村の宝」
 - 平成27年「なにわ農業賞」
- 主力商品：サラダほうれんそう・サラダこまつな・パクチー等を水耕栽培。
- 取得承認等
 - 平成19年 農地所有適格法人
 - 平成19年 認定農業者
 - 平成20年 大阪エコ農産物認証

取組の概要

- 文具やオフィス家具等を製造販売するコクヨグループの特例子会社であり、農地所有適格法人。
- 知的障害者5名・精神障害者2名を含む従業員18名（短時間就労含む）が、養液栽培によりサラダほうれんそう等を通年で栽培（令和4年）。
- 24時間コンピュータ管理を導入して、ハウスの温湿度管理を行うとともに、覆土灌水機や自動包装機を導入して効率化を図ると共に、難しい判断が必要な育苗についてはコンピュータ管理の苗テラスを活用して安定的な生産を実現。



正確に作業しやすく工夫された容器



コンピュータ管理の苗テラス



サラダほうれんそう

体制図

コクヨ（株）

8つの子会社

2つの特例子会社が、コクヨ(株)と8つの子会社をグループ適用によりカバー。

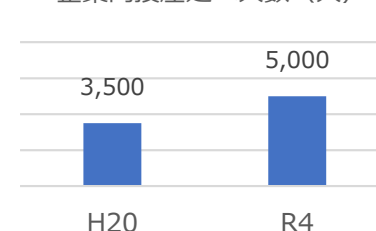
コクヨKハート（株）
（身体・精神障害者）

ハートランド（株）
（知的・精神障害者）

取組の成果

- 授産施設との連携による障害者の施設外就労受け入れ延べ人数は3,500人（平成20年）から約5,000人（令和4年）に増加。
- 視察人数も同様に増加している。

企業内授産延べ人数（人）



所在地 ▶大阪府泉南市幡代2018番地

連絡先 ▶TEL：072-480-0567

ウェブサイト ▶ <https://www.kokuyo.co.jp/heartland/>

<https://www.facebook.com/kokuyoheartland>

<https://www.instagram.com/kokuyoheartland>

【取組のプロセス】

平成18年

きっかけ

就労率が低い知的障害者等の雇用促進のための職域として農業に着目し、持続可能なビジネスモデルの確立に向けて特例子会社を設立

開墾農地を使った農作物栽培などの事業

- 操業に向けて、農業用ハウスや水耕栽培施設の整備等を行う。泉南市幡代で41aの農地を購入し、農業生産法人になる。
- 農業経営基盤強化促進法に基づく認定農業者。



収穫・選別の様子

平成21年

大阪府ハートフル大賞受賞

- 安定的かつ持続可能なビジネスモデルとなるため、経営努力の継続、農産物の販売先の確保や障害者が主人公の会社となるべく、作業の分業化、工夫、終礼の実施等、障害者の主体性を尊重のほか、福祉施設の企業内授産の拡大等が認められ、受賞。



大阪府H.P.より

平成26年

企業内授産が拡大（100名／週の障害者が作業参加）

- 水耕栽培による障害者雇用を行う企業、社会福祉法人の視察受け入れ、アドバイスや販路紹介等を行い、ハートランド株式会社の取組が広がるように努力。
- 障害者を雇用し、農業に取り組んでいる企業のネットワーク化に努める。



農産物の包装作業

今後の
展望

経営の安定と、「障害者が主人公」の会社経営を継続

- 常に効率化を考え、改善を行い、利益構造の確立に努力する。
- 障害者雇用における農業の可能性について、FacebookやInstagramを活用し、情報発信を続ける。
- コクヨグループと連携し、社会的課題であるダイバーシティ & インクルージョンの世界を広める。



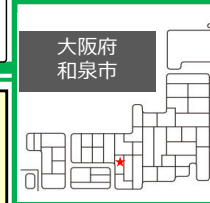
定植作業の様子

特例子会社として農地取得、農業用ハウス設置、水耕栽培施設を導入し操業

高品質農産物提供のため、毎日タンクのpH測定、徹底した洗浄等を実施

働きやすくするため、①挨拶の励行、②全体終礼で一日の業務の振り返りのほか、月間MVPでモチベーション向上

・受け身でなく、社員一人一人が自立できるように。
・それぞれが多能工を目指して職域拡大に努める



生協が設立した就労継続支援A型事業所を併設した農地所有適格法人であり、生協で出た食品残渣を堆肥化し、ほ場の土作りに使用する「食品リサイクル・ループ」に取り組む。

基本情報

- 所在地：大阪府和泉市
- 団体名：株式会社いずみエコロジーファーム
- 選定表彰：
 - 令和2年度「食品産業もったいない大賞」
 - 令和3年 ノウフク・アワード2021 優秀賞
- 主力商品：きゅうり、こまつな等を栽培。
- 取得認証等：
 - 平成22年 認定農業者
 - 平成22年 農地所有適格法人
 - 令和元年 ノウフクJAS認証

取組の概要

- 平成22年、大阪いずみ市民生活協同組合が設立した農地所有適格法人。平成24年に、就労継続支援A型事業所「ハートランド事業部」を設立して、障害者を雇用。現在、知的障害者を中心とする利用者が、露地・ハウスの野菜栽培に通年で取り組む。
- 生協を軸として取組を展開し設立4年目で黒字化。生産物の約90%を生協に出荷している。生協で出た食品残渣を堆肥化し、ほ場の土作りに使用することで「食品リサイクル・ループ」にも取り組んでいる。
- いずみ市民生協グループ内の傷病休業していた職員に対して「復職プログラム」の一環として復職支援を実施。



食品残渣由来の堆肥
(ハートコープエコ)



ハートコープエコ使用の農産物



農作業の様子

体制図

大阪いずみ市民生活協同組合

食品残渣

食品リサイクル・ループ

農産物

(株) ハートコープいずみ
(特例子会社)

(株) いずみエコロジーファーム
(ハートコープで生産の堆肥利用)

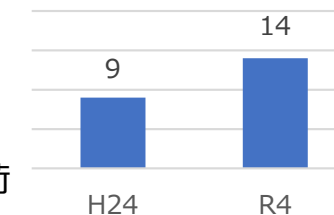
堆肥

リサイクル堆肥（ハートコープエコ）を活用した農産物の生産・加工・販売を行う。

取組の成果

- 設立時（平成24年）の9名からスタートした障害者雇用者は、14名（令和4年）と増加している。
- 視察人数も同様に増加している。
- ノウフクJASを取得し（令和元年）、こまつなの年間出荷量が、35.2万袋から42.8万袋（令和4年）に増加。

企業内授産延べ人数（人）



所在地 ▶ 大阪府和泉市善正町1030番地

連絡先 ▶ TEL：0725-99-8057 E-mail：hi-miyake@izumi.coop

ウェブサイト ▶ <https://www.izumi.coop/coopsaien/#company>

【取組のプロセス】

平成22年

昭和49年に「大阪いずみ市民生活協同組合」は、主婦を中心とした消費者の活動により誕生。

きっかけ

生協から発生する食品残渣を堆肥化し、その堆肥で野菜を育てる「食品リサイクル・ループ」の実現に向け、堆肥の受け入れ先となる農地所有適格法人を設立

株式会社いずみエコロジーファームの設立

- 大阪いずみ市民生活協同組合が農地所有適格法人として設立し、廃棄ゴミゼロ、食品残渣の再資源化をめざし、リサイクル事業や食品残渣の再生利用事業を担う。



農場の全景

平成24年

障害者運転のトラクターによる耕耘から収穫、袋詰め作業までのすべての作業を実施（機械運転は試験合格者のみ）

就労継続支援A型事業所「ハートランド事業部」の設立

- 障害者の自立支援と雇用促進を目的に設立され、ハートコープいずみが生産するリサイクル堆肥（ハートコープエコ）を活用した農産物の生産・加工・販売を行う。
- 農地所有適格法人として農作物を栽培し、いずみ市民生活協や地元の直売所へ出荷。



農作業の様子

令和元年

ノウフクJAS認証取得

- こまつな、きゅうり、ほうれんそう、しゅんぎくについてノウフクJAS認証を取得。ノウフクJAS認証取得後、出荷量が毎年大幅に増加傾向。
- 残留農薬チェックの上、殆どの生産物を大阪いずみ市民生活協同組合に出荷。



ノウフクJASのロゴマーク

今後の展望

受け身でなく、社員1人1人が自立できるように、障害者がリーダーとなり、指導できる環境へ。

黒字経営の維持を目指し、さらなる事業分野の開拓を進める

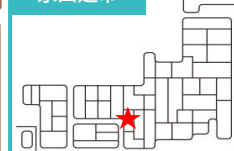
- いずみ市民生活協グループ全体で、リサイクル資源の再資源化や食品残渣の堆肥化の促進により、組合員の環境活動への意識向上にもつながり、更なる発展が必要。
- 設立4年目に黒字化を達成したものの、引き続き黒字経営を維持するとともに、大阪いずみ市民生活協同組合と連動して、さらなる事業分野の開拓を進めていきたい。



ノウフクJAS農産物

障害の有無や年齢を問わず、すべての人たちが集い、人と自然、人と人との触れ合いの中でお互いを認め合い、生きがいを見つける地域のコミュニティを提供。園芸療法により利用者の主体性を引き出す。

福祉事務所

京都府
京田辺市

きっかけ

H13年

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出することを目的に施設と隣接する農地7aを借りて園芸療法を開始。

人を耕す

- 認知症で意欲低下が著しく動くことが少ない利用者に自分の畑をもつことにより、健康維持・増進に加え精神機能の保持につながっている。
- レイズドベッドを導入することで、車椅子利用者や立位保持が難しい人等、誰もが農園芸作業に取り組める土壌が醸成されている。

地域を耕す

- デイサービスにある畑で地域の未就学児親子の自然体験活動を月3回実施、平均5組=10人利用、多世代交流により、誰もが楽しめる地域の場を創出。
- 農作業に取り組む利用者が増えたことから、デイサービスから少し離れた遊休農地を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用し、地域の農地の維持に貢献。

未来を耕す

- 農園芸ができる介護現場を増やすために、当法人で共有している「園芸療法心得帳」を土台にマニュアルを作成、活用し、全国各地の高齢者施設で農園芸を実践できる仕組みを作る。
- 介護現場での農福連携の取組を通して、高齢化による農業の担い手不足と、それによる荒廃農地の増加といった社会課題の解決に努める。

取組

成果

農地面積

7a(R2)
→7a(R6)

- 遊休農地を地域の小学生の自然体験活動を月2回実施、40人が参加。季節の野菜作りを中心とした農業体験をしている。デイサービス利用者が子どもの畑の手入れをすることもあり、畑を通じた交流の場になっている。
- 令和3年度JA共済総研セミナーで「行きたい=生きたいデイサービス～畑のあるデイサービスで豊かな毎日」というテーマで登壇し、実践の報告をすることによって理解が深まり、高齢者の農福連携による新たな可能性の創出につながっている。



体を動かすことで運動機能向上・維持



レイズドベッド 座った状態で白菜を管理

基本情報

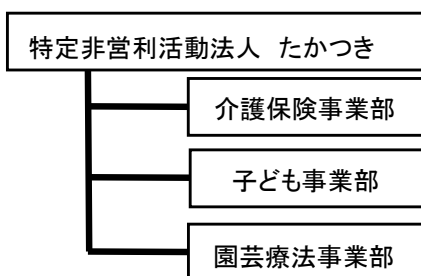
設立:H13年 / 農福連携取組開始:H13年

概要

主力商品
(農作物) 野菜、花き

特徴的な取組
環境保全型農業、ユニバーサル農園 等

体制図



受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

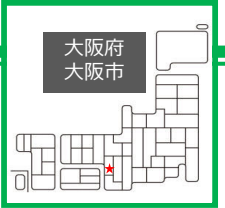
住所:大阪府高槻市原2235番地

TEL:072-689-9112

Mail:information@npo-takatsuki.org

URL:https://npo-takatsuki.org


視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可



大阪西成区のイメージを変えよう“にしなりが変われば大阪が変わる”生活弱者と言われる人たちで新しい産業を創り、“にしなりムーブメント”を起こし、地域の活性化と共に美味しい食材を大阪の食卓へ。

基本情報





- 所在地：大阪府大阪市
- 団体名：特定非営利活動法人街かど福祉
街かどあぐりにしなり よろしい茸工房
- 選定表彰：
 - ・福祉未来創造大賞2018
 - ・ソーシャルビジネスプラン部門特別賞
(主催：NPO法人DeepPeople)
- 主力商品：しいたけ・きくらげ・たもぎ
Meひーじょ (芽椎茸のアヒージョ)
- 取得認証等：
 - 令和元年 認定農業者



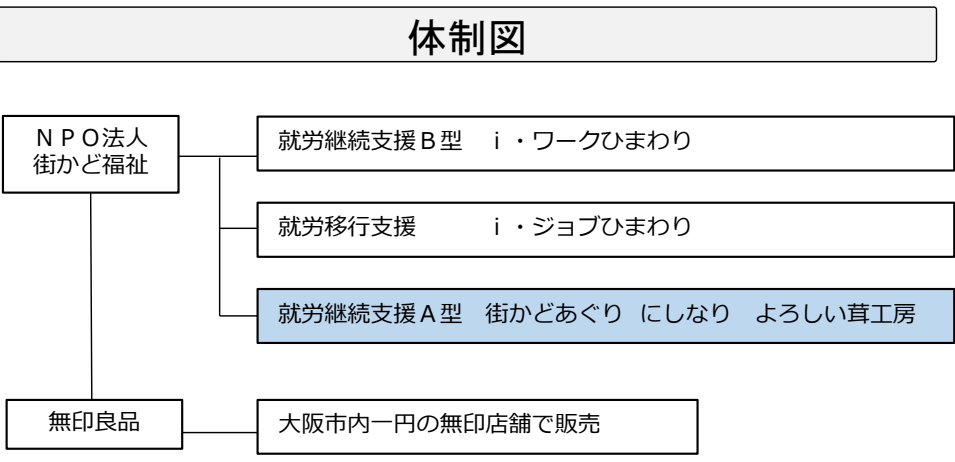
菌床工場 充填作業

取組の概要

- 就労継続支援施設A型利用者とB型利用者の障害者16名（高齢者、生活困窮者等含む）及び職員7名で菌床生しいたけの製造に取り組む（令和5年）。
- 栽培した生しいたけは、梅田、難波、天王寺等大阪市内の飲食店を中心に小規模スーパー、産直市場のほか、“難波高島屋”へ毎日配達。企業とのコラボ企画で、「芽しいたけのチップス」、「しいたけのベジポタスープ」、「よろしい茸の炊いたん」を商品化。無印良品とコラボ「きのこのご飯・スープ」「きのこのアヒージョ」を商品化。
- 農山漁村振興交付金（農福連携対策）により、農福連携技術支援者3名の人材を育成。

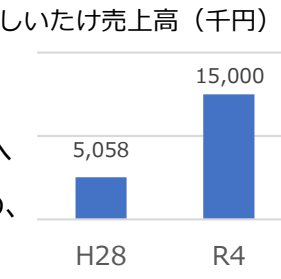





よろしい茸工房全景 しいたけの栽培状況 各種店舗での販売状況



取組の成果

- しいたけの売上は、取組当初(平成28年)の5,058千円から15,000千円（令和4年）へ増加。
- 施設面積も、4.95a（平成28年）から6.27a（令和2年）へ増加、自家菌床製造施設も併設（令和3年）し、菌床も含め、全て大阪産に。



しいたけ売上高（千円）

年次	売上高（千円）
H28	5,058
R4	15,000

所在地 ▶ 大阪市西成区北津守4-9-5
 連絡先 ▶ TEL：06-6567-1007 E-mail：toyota@iwork-himawari.com
 ウェブサイト ▶ <http://www.yoroshitake.com>

【取組のプロセス】

平成16年

頑張れば自らの手で対価を得られるという働く喜び、楽しみを知ってもらいたいとの考えでスタート

きっかけ

就労継続支援B型事業所から就職を！というコンセプトで菌床椎茸栽培をスタート

就労継続支援B型事業所 iワークひまわり開設

- 障害者の作業を行うための施設を開設するほか、ワークショップ等の活動も始める。
- 体調管理やスキルアップに取り組む「施設内訓練」、安定して長く働くための「職場定着支援」等、トータルサポートを心がける。



iワークひまわりの外観

平成24年

スキルがあっても、コミュニケーションが苦手な就職が難しいため、自立促進に向け新たな働き場所として、街なかで農業ができないものか検討

就労継続支援A型事業所 街かどあぐり にしなり よろしい茸工房 開設

- 行政に対して、障害者、生活困窮者等も働くことが出来て、西成のイメージを一新し、地域活性化となり得る都市型農業として菌床栽培施設での菌床しいたけ栽培を提案。
- その結果、賛同が得られ、街なかでの農業が始まった。



工房内の障害者スタッフ

平成28年

動画で作業マニュアルの作成により、利用者にとってスムーズに作業が出来るよう工夫

よろしい茸ひまわり子ども食堂開設

- 北津守地域や近隣のこども達とのつながりが増えることを目的として、北津守地域で初めてのこども食堂を開設。
- 「街かどあぐり にしなり よろしい茸工房」が運営。
- 令和3年1月 菌床製造工場始動 同年4月より自社菌床にて栽培始まる。



子ども食堂のメニュー

令和2年

府立西成高校のビジネス体験及びなにわ高等支援学校の農業コースへ菌床の提供等や栽培体験の提供を実施中

大阪産しいたけの認知拡大と販売促進

- マスコミ各社の取材や各種イベントへの積極的な出店等による大阪産しいたけの認知度拡大と販売促進の為にプロモーションECサイトに力を入れ、コロナ禍の非接触販売を経て、SNS活用へとシフト変更行い、複数のECサイトの活用にも力を入れる。
- 区内小学生の見学と区内中学生の実習の受入を継続しており、感想文が何よりの楽しみであり、椎茸嫌い克服してくれる子達が続出、引き続き継続していく。
- 大阪パルコープ、無印良品とのコラボも令和5年から始まり、今年度も継続中である。

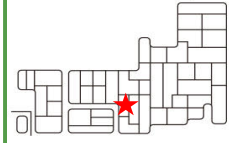


小学生の見学と実習の様子

今後の展望

農林水産業経営体

大阪府
四條畷市



独自の高床式砂栽培技術により軽労化農業を実現したことで障害者の自立を支援し、障害者の就労安定に繋がったほか、地域農家等との連携に取り組み、循環型農業でも地域社会に貢献。



基本情報

設立:H22年 / 農福連携取組開始:H22年

取得認証等:認定農業者(H23年)

主な選定表彰:2018年度ソーシャルビジネスモデル部門大賞(ソーシャルミールプロジェクト主催)等

概要

主力商品

(農作物)ミニトマト、サンチュ、小松菜、フリルレタス 等
(加工品)チンゲン菜のお漬物、野菜チップス

特徴的な取組

環境保全型農業、ユニバーサル農園、6次産業化 等

体制図

一 農福連携体系図 一



住所:大阪府四條畷市大字逢阪479番4

TEL: 072-863-2121

Mail: greenfarm@sunasaibai.co.jp

URL:https://greenfarm4794.jimdofree.com/

きっかけ

H22年

「誰もが主役になれる農業」の実現を目指し、建設業で培った技術力を応用した高床式砂栽培を開発。その後、実証農場を設立して農福連携事業を本格的に始動。

取組

人を耕す

- 高床式砂栽培という独自の技術を用いることで、これまで農業に参入できなかった障害のある方々に、安全で働きやすい環境を提供。
- 障害者の自立を支援するため、高床式砂栽培では全ての作業工程が手作業で完結できるように細分化し、誰もが安全に幅広い作業に携われる環境を整備。

地域を耕す

- 地域の農家等と連携し、通常は廃棄されがちな規格外の野菜を活用した「野菜チップス」などの商品開発に取り組み、農業におけるフードロスに貢献。
- 地域の特別支援学校や障害のある子供を持つ家族を対象に、定期的な農業体験会や砂栽培講習会を実施し、地域住民との交流を促進する機会を創出。
- 他の事業所とも連携し、障害者が栽培した葉物野菜を地域の飲食店や学校給食等に供給。

未来を耕す

- 企業の社会的責任と障害を持つ方々の就労機会創出を同時に実現するモデルを構築。
- 大阪産エコ野菜認証の取得や、糖度11の高糖度ミニトマトの栽培成功といった実績により、障害者が生産する野菜の品質と価値を証明し、ブランド化を実現。
- 先進的な栽培技術と、多様な品目を生産できる実績を活かし、6次産業化を推進。

成果

平均工賃月額	障害者雇用数	売上高	農地面積
7,000円(R2) →15,000円(R6)	15人(R2) →43人(R6) (就労支援B型)	1億6,725万円(R2) →1億3,863万円(R6)	1.1ha(R2) →1.5ha(R6)

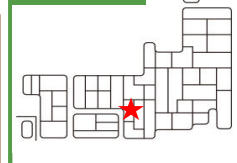
- 障害者がチームリーダーとなり、葉物野菜の生産を主導し、大阪府内の高級飲食店へ高品質な野菜を安定的に提供。
- 高床式砂栽培により、農業未経験者の障害者でも無理なく従事できる環境が整備でき、就労支援から正規雇用への円滑な橋渡しを実現。

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

荒廃農地を活用し、京野菜や宇治抹茶の生産・加工・コミュニティカフェ運営を展開。ろう者を中心とした利用者の高工賃を実現するとともに、地域活性化に貢献。

福祉事業所

大阪府
枚方市

きっかけ

H
23
年

ろう者が手話で気軽に交流できる居場所として、廃園となった茶園で碾茶等の栽培をする前身の事業所を開所。2024年に元職員、利用者らで大阪へ拠点を移し、本事業所を開所。

人を耕す

- 平均工賃は全国平均の約2倍。
- 盲ろう者など重複障害者なども在籍。高齢者には座ってできる作業、半身まひの者には片手でできる作業など、個々の特性に合わせた作業割振と支援を行い、全員が主体的に活躍できる環境を整備。
- ろう者のほか精神、知的、重複障害、認知症の高齢者など様々な人が助け合う風土を形成。

地域を耕す

- 山城北農業改良普及センターやJA京都やましろと連携し、京都えびいも、花菜、京都田辺茄子などの「京のブランド野菜」を生産。京都えびいもの苗を生産し、JAをとおして、新規就農者などの手に渡し、地域農家を支えている。
- 手摘み茶農家が減少する中で、毎年手摘み収穫を行い、宇治茶文化を維持・継承。地元茶農家への農業支援も実施。

未来を耕す

- スパイスメーカーと連携した「全国 鷹の爪軸取り選手権大会」の企画・開催や、市の自立支援協議会就労部会への参加などで、農福連携の情報発信を行う。
- 施設利用者である日本で唯一の盲ろうトライアスリート中田鈴子選手を支援し、国内外でスポーツを通じた農福連携の啓発活動を展開。

取組

基本情報

設立:R6年 / 農福連携取組開始:H23年

取得認証等:認定農業者(H27年)、ノウフクJAS(R7年)

概要

主力商品

(農作物)宇治抹茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、京都田辺茄子 米、京都レモン、ゆず

特徴的な取組

環境保全型農業、自然栽培、ユニバーサル農園 等

体制図

社会医療法人みどり会 — さんさんグリーン
 農業
 加工、菓子品製造
 コミュニティカフェ運営
 (6次産業)

介護老人保健施設等
 姉妹法人を含め、
 26事業所

住所:大阪府枚方市藤阪中町3-20

TEL:072-807-3356

Mail:33green.cc@gmail.com

URL:https://syoujukai.org/welfare/sansangreen.html

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

成果

平均工賃月額

4.6万円(R6)

施設利用者数

21人(R6)

売上高

936万円(R6)

農地面積

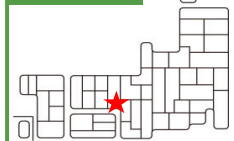
1.3ha(R6)
※全て耕作放棄地を活用

- 市外の手話通訳者研修会などに出講し、農福連携とは無縁の福祉関係者への啓蒙活動に取り組むことで、農福連携の認知拡大に寄与。
- 併設カフェで毎日ワンコインランチを提供し、地域の高齢者などの居場所を作る。5月の茶摘み体験をはじめえびいも、茄子の収穫体験、土曜市、呈茶など、通年で市民との交流イベントを実施。
- 低農薬・ノンワックスのレモンや無農薬の柚子を栽培し、ノウフクJAS認証を取得。皮まで安心して食べられる果実を使って大学やレストランと連携。レモネードの販売や柚子のホットソースの商品化など話題性のある取組を展開。
- 地元の特別支援学校や大学など、教育機関とも連携。

S56年から農福連携を開始。地域の農業者の高齢化により作業受託面積を拡大し、草刈り機の操縦等にも障害者が従事。竹林の伐採・搬出等も実施。

福祉事業所

兵庫県
神戸市



きっかけ

昭和56年

農福連携という言葉が使われる前から、利用者の職業訓練の一環として農作業を実施。

人を耕す

- 職業訓練として50年以上の実績があり、現在は、知的障害者35名が農作業を実施。
- 草刈班、米作業班、調整班、加工班とチームを組んで活動。班内にはリーダーを設けることなく、誰もが自分の役割を果たせるように工夫。

地域を耕す

- 地元の森林組織から依頼を受け、土手や法面の整地、水路の溝切り、竹林の伐採作業を実施。荒廃農地等での作業受託は水稲約13ha、野菜約1ha。
- 公益財団法人の助成金を活用してライスセンター機材を設置したことで、稲作全般の作業を行うことができるため、地域から依頼も増え、地域の農地の維持に貢献。
- 水田活用の直接支払交付金を活用して、白大豆を生産。

未来を耕す

- 地元の田畑の維持管理をする上で隣接する竹山林の整備作業に役立てるため、共同募金会の配分金を活用してウッドチップパーを導入し、樹木のチップ化や竹の堆肥化を行う。
- 「米粉倶楽部」に登録し、米粉を販売。地域の喫茶室、カフェから地産地消を推進する目的で米粉が使用されるなど、販路が拡大。

取組

基本情報

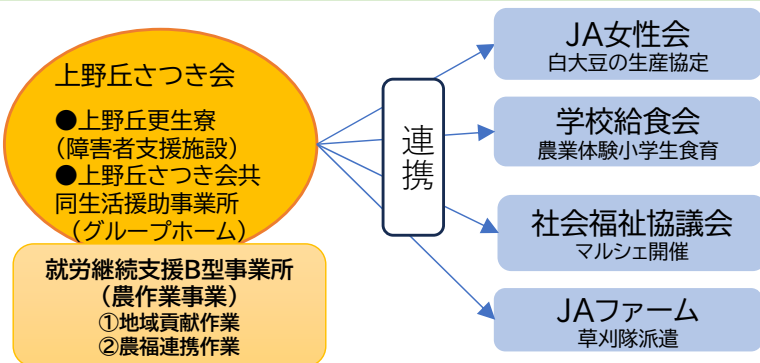
設立:S43年/農福連携取組開始:S56年

概要

主力商品
(農作物)じゃがいも、たまねぎ、白大豆、米、すいか
(加工品)米粉、米粉を利用した穀物パンケーキミックス粉

特徴的な取組
環境保全型農業

体制図



成果

平均工賃月額	農作業に関わる障害者数	農業売上	農地面積
5,000円(S56) →18,700円(R5)	20人(S56) →35人(R5)	800千円(S56) →21,812千円(R5)	2ha(S56) →14ha(R5)

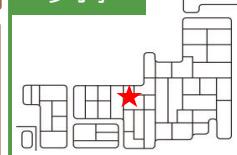
- 神戸市都市局や社会福祉協議会主催のマルシェに積極的に参加し、自家栽培野菜を販売。利用者自身が対面で販売することで農福連携の発信につながるほか、利用者の生きがいも創出。また、地域からの要望に応える形で、マルシェの参加を継続しており、収益も向上。
- JA女性会との連携による「北神みそ」の原材料の白大豆生産及び、社会福祉協議会との連携による「ごはんプロジェクト」、「教育ファーム」の設置による子どもたちへの食育など、地域活性化に寄与。

TEL:078-958-0252/Mail:info@uenooka.jp

地域農家のB級品や荒廃農地で栽培する菊芋、鳥獣害駆除による鹿肉を活用し、無添加ドッグフードを製造・販売。施設利用者は作業の一部を担い、廃棄予定の資源に付加価値を創出。

福祉事業所

兵庫県
多可町



きっかけ

H28年

農福連携を通じて障害のある方や多様な人々が能力を発揮できる環境を整えるため、事業所を開設。

人を耕す

- 農福連携を通じて障害のある方や多様な人々が能力を発揮できる環境を整備。
- 成果に応じて工賃や賃金の向上が図られ、意欲的に働ける仕組みを構築。
- 障害の有無や国籍を超えて互いを尊重し合う雰囲気や育まれ、多様な人が寄り添い助け合う職場文化を醸成。

地域を耕す

- 鳥獣害駆除による鹿肉や地域農家のB級品野菜、荒廃農地で栽培した菊芋を活用し、廃棄されるはずの資源に付加価値を付けることで地域農業の維持と地域資源の循環に貢献。
- 草刈り作業を農家から受託し、支援した農家から米を仕入れ、西脇工業高校の食堂運営で学生へ提供する仕組みを整備することで、地域農家の販路拡大と地産地消の推進を同時に実現。

未来を耕す

- 廃棄予定資源を活用した6次産業化を通じ、地域資源に付加価値を持たせることで、工賃の向上を実現。
- 障害者・外国人材等多様な人材が関わることで地域共生社会の実現に寄与。

基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:H28年

主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝(R元/近畿)選定 等

概要

主力商品
(農作物)米、菊芋
(加工品)ドッグフード

特徴的な取組
6次産業化

体制図

NPO法人cambio

passo多可 (B型)
各自治体(鳥獣対策課 等)
地元兼業農家・野菜卸業者
水産加工会社

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

平均工賃月額

22,453円(R2)
→45,440円(R6)

障害者数

2人(R2)
→5人(R6)

売上高

1,200万円(R2)
→2,900万円(R6)

農地面積

1.4a(R2)
→5.1a(R6)

- 経験を豊富に積んだ利用者が責任者やリーダーとして作業指導や管理を担う事例が増加。
- 経験を通じて地域企業への一般就労につながる事例もあり、社会参加の幅が拡大。
- 農業・福祉・教育を横断した取組により、学校、行政、地域企業との連携を生み、地域の農林業の維持と活性化を推進。

住所:兵庫県多可郡多可町森本809-15

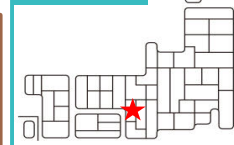
TEL: 0795-20-7325

Mail: t-gotou@npo-cambio.org

URL: <https://npo-cambio.org/>

高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する地域で、農福連携により障害の有無にかかわらず、皆が活躍できる「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

福祉事務所

奈良県
奈良市

きっかけ

H4年

義務教育卒業後の生徒たちの行き場が、社会全体で整備されていないことに大きな問題を感じたことから社会福祉法人を設立。

人を耕す

- 障害者の作業を行うための施設を開設し、ワークショップ等の活動を行う。
- 生産活動を通じて社会参加を促し、自立支援と工賃の保障に努める。
- 収穫農産物は、カフェ・レストランの食材として利用され、いずれも障害者が主力として働く。
- 食品加工の就業訓練により、40名以上が一般企業に就職。今後も就職支援を継続する。

地域を耕す

- 地元生鮮野菜加工企業と連携し、廃棄予定の野菜の端材から、商品に加工、販売し、フードロスの削減に対する事業を行う。
- 地域の祭りの他、道作りや人足等、地域環境の維持活動にも積極的に参加。
- 他法人と連携し、ひとり親家庭への食材提供や子ども食堂利用者収穫体験ツアーなどを実施。

未来を耕す

- 荒廃農地や就農者の減少を食い止め、地域の食料供給のセーフティーネットとして機能し、障害の有無に関係なく多くの人たちが活躍する社会全体を支える仕組みを実現する。
- 小学校の廃校を奈良市から買い取り、食品加工場を設置。レトルト食品、冷凍食品を製造し、障害のある人たちの活躍の場や工賃向上の他、地元地域の雇用拡大なども見込んでいる。

取組

成果

平均工賃月額

21,800円(R2)
→29,800円(R6)
就労継続支援B型

障害者数

337人(R2)
→412人(R6)
(就労継続支援B型)

売上高

1億8千2百万円(R2)
→2億5千2百万円(R6)

農地面積

6.5ha(R2)
→8.2ha(R6)

- 栽培される米を使用し、年間10万食以上の給食や弁当を製造。更に奈良市学童保育の長期休暇中昼食の提供を受託し、学童保育を利用する児童対象に、年間約16,000食を提供。
- 荒廃農地で米、さつまいも、玉ねぎ、じゃがいもや夏野菜、冬野菜を20種類以上、ブルーベリーや栗など果樹を栽培。最盛期には収穫祭を開催。
- 2018年度より「プレミアムライセンスグッドファーマー」認定米を生産。
- 企業のOEM受託、スーパーや物産店等、全国へ農産物や加工品を出荷。



稲刈りを皆で協力



レストランでのホール業務

基本情報

設立:H4 / 農福連携取組開始:S60年

取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R3年度)

主な選定表彰:ノウフク・アワード2020審査員特別賞「地域を耕す」、R5年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰等

概要

主力商品

(農作物) 水稻、さつまいも、ブルーベリー、タマネギ
(加工品) 干し芋、レトルト・冷凍食品、菓子等

特徴的な取組

農作物の生産から加工、販売の全ての場面が障害者の活躍場所になっている。

体制図

社会福祉法人
青葉仁会あおはにの家 萌あおはに
(施設入所・生活介護・就労継続B)

あおはにファーム・あおはに自然学校 (農産品の生産・ブルーベリー園・観光農園)

水間ワークス (飲食店・乾燥加工)
RIKUGOの森 (レトルト・冷凍製品製造) ポ
ラーノ広場 (飲食店、パン製造) 生駒事業
所 (飲食店、菓子製造) 満天ひろば (飲食
店、石鹸・縫製製造) デリカテッセンハー
ヴ (飲食店、給食製造) 日笠ワークス (飲
食店、紙漉き製造)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	
その他	○

住所:奈良県奈良市袖ノ川町50-1

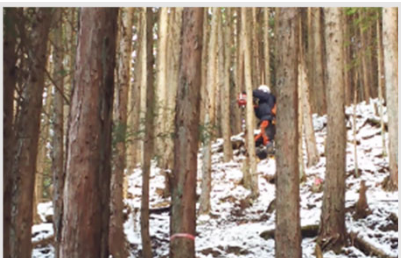
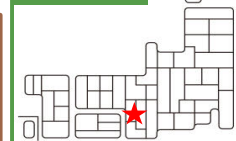
TEL:0742-81-0420

Mail:info@aohani.com

URL:https://aohani.org/

国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場作りを行うこと等により、罪に問われた者等の社会復帰を支援し、誰もが地域の一員として包摂される社会の実現を目指す。

その他

奈良県
橿原市

就労研修 (研修先: 五條市森林組合)



カットネギ工場パック詰め

きっかけ

R2年

国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場を作り出すことを目的として取組を開始。

人を耕す

- 出所者を雇用し、住居の提供や社会教育の実施により社会復帰を支援する。
- 五条市内の森林組合、青ネギ生産組合等の協力により、就労研修(技術指導等)を実施。
- 外部協力者を講師に招き、SST、アンガーマネジメント、心理的アプローチ、一般教養(作業安全衛生教育・健康管理)等の社会教育を通じて社会適応能力の向上に繋がっている。

地域を耕す

- 近隣の休耕田を無償で借り入れてネギを栽培。荒廃農地の解消による地域維持に貢献。
- クリーンキャンペーンやこども食堂への応援など、社会貢献活動に積極的参加。
- 研修員が社会福祉法人の農業部や研修先の福祉施設に採用される等、地域の農林水産業の担い手に。

未来を耕す

- 農業系学校のカリキュラムも踏まえて、農業従事者に必要な技能、資格取得(日本農業技術検定各級、農業簿記各級、農業機械士及び大型特殊免許などの資格取得)を目指す。
- 将来は研修員の自立(起業・農業法人での就農等)に繋げる。
- 更生支援充実し、担う団体・機関派遣できる職種を広げ、社会に貢献することを目指す。

基本情報

設立: R2年 / 農福連携取組開始: R2年

取得認証等:

主な選定表彰: 奈良県保護観察所 感謝状、作田明賞 優秀賞

概要

主力商品

(農作物)ネギ
(加工品)カットネギ

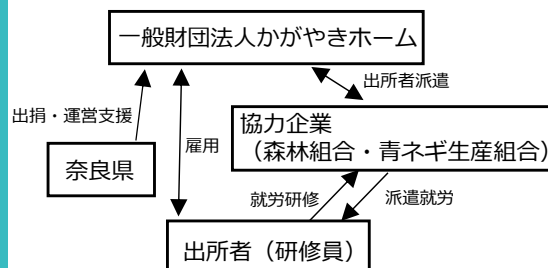
特徴的な取組

林福連携、ネギの加工等

取組

成果

体制図



受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

平均給与月額

162,799円(R4)
→179,615円(R6)

障害者等数

6人(R4)
→2人(R6)

事業収益

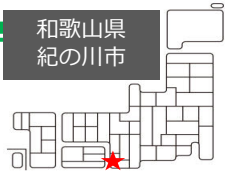
144万円(R4)
→885万円(R6)

住所: 奈良県橿原市大久保町320番地の11

TEL: 0744-33-9661

URL: <https://www.nara-kagayaki.com/>

- 法務省と連携して都道府県が罪に問われた者等の社会復帰を支援する仕組みは全国初。
- 当財団の取組を地区更生保護女性会及び協力雇用主総会など機会あるごとに紹介したこともあり、マスコミ数社から当財団の取組について新聞報道されることによって理解が深まり、厚生支援と農福連携による新たな可能性の創出につながっている。



「平和で持続的な地域社会をつくる」を共通理念とし、直売所「ふうの丘」の顧客開拓、農業の担い手の減少と荒廃農地の増加への対応するため、野菜等の地元産品を使ったメニューを提供するカフェ経営や作物栽培等に取り組む。

基本情報

- 所在地：和歌山県紀の川市
- 団体名：社会福祉法人 一麦会
ソーシャルファームもぎたて
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
優秀賞
- 主力商品：たまねぎ、トマト、大根、唐辛子、キウイフルーツ、レモン、α化米粉、お米かりんとう、米パン粉等
- 取得認証等：平成28年 有機JAS

取組の概要

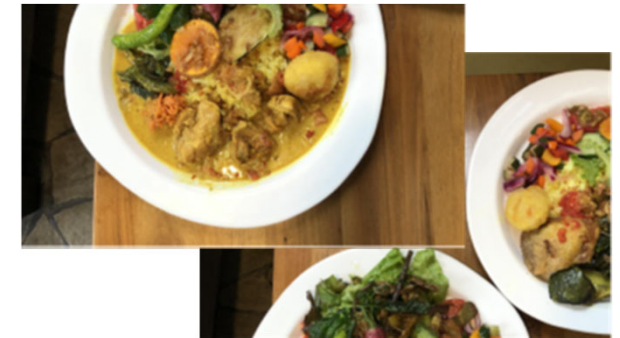
- 地域の直売所「ふうの丘」の顧客開拓のため「ふうの丘」内で2件のカフェを運営し、野菜や果物等の地域産品を使ったメニューを提供するするとともに、農業の担い手の減少と荒廃農地の増加への対応するため、農作物の栽培等への取組。
- 農地2haを借上げ、たまねぎ、トマト、大根、キウイ等を栽培し、年間を通して紀の川農協等に出荷。また、キウイやじゃばらの加工への取組む。



たまねぎの収穫

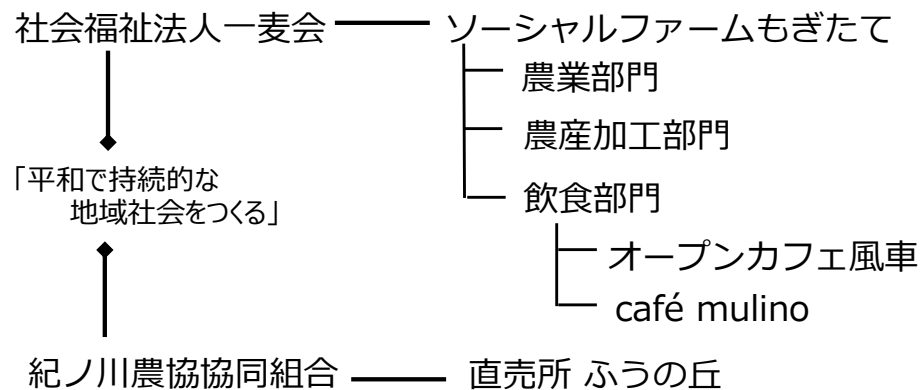


柿の加工



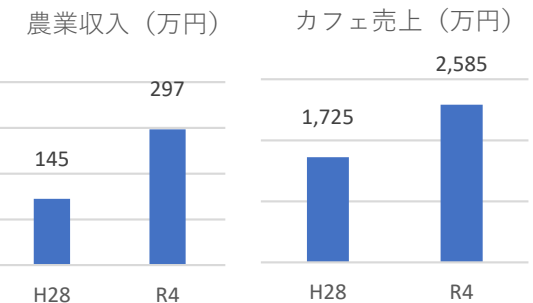
地域野菜をふんだんに使ったカフェメニュー

体制図



取組の成果

- 農業収入は、平成28年の145万円から、令和4年には297万円に増加。
- カフェ売上は、平成28年の1,725万円から、令和4年には2,585万円に増加。



所在地 ▶ 和歌山県紀の川市平野927

連絡先 ▶ TEL : 0736-75-4603 E-mail : muginosato.mogitate@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://socialfirm-mogitate.jp/>

【取組のプロセス】

きっかけ

飲食店経営をして欲しいと紀ノ川農協から要請があったことから飲食店の運営を開始し、地域の担い手の減少や荒廃農地の増加を受けて野菜の栽培も開始

平成13年

オープンカフェ「風車」を開設

- 平成13年、紀ノ川農協がファーマーズマーケット紀ノ川「ふうの丘」をオープン。一麦会に飲食店経営の要請があり、オープンカフェ「風車」の運営を開始。
- 地域の野菜、果物、こめ油等をPRする意識で、これらを使ったオムライス、コロツケ、スムージー等のメニューを提供。



荒廃農地の再生

平成27年

ムリーノ（カフェレストラン）の開設

- 平成27年、ファーマーズマーケット紀ノ川「ふうの丘」で、カフェ・ムリーノ（カフェレストラン）の運営開始。
- 人気の「野菜で旅するランチプレート」など、地域野菜をふんだんに使った旅がテーマのメニューを開発、提供。
- 荒廃農地を再生して借受け、トマトケチャップ工場の依頼に応じて、加工用トマトを栽培。
- 平成28年、紀ノ川農協の荒廃農地再生プロジェクトで有機JASたまねぎ(1ha)を栽培。



平成29年、アルファ米粉を生産する米粉事業を開始

令和2年

最近の状況

- 農業収入：約3百万円（R4）、カフェ収入：約2,600万円（R4）、農産加工等収入：約1,400万円（R4）平均工賃：約8万円（R4）、障害者雇用数：22名（R4）

令和3年、山羊の飼育、さつまいもの栽培、焼き芋の販売を開始

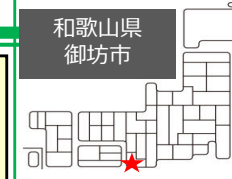
今後の展望

地域交流、地元産品の積極的使用に加えて、経営規模拡大を検討

- 農業主催のイベント等に積極的に参加して地域交流を図ること、加工品や食事メニューの開発にあたって、地元企業や農家等の産品を積極的に使用することを今後も継続する。
- 高齢農家の農地の受け手と地域で認知されており、借りてほしいという声に応えるため、経営規模の拡大を検討。



トマトやキウイを用いた加工品の製造



塩づくりに関する遺跡のある地で、地域の農業組合、漁業組合、食品加工会社、生活協同組合などと連携し、化石燃料を使わない釜炊き自然塩づくりに取り組む。

基本情報

- 所在地：和歌山県御坊市
- 団体名：社会福祉法人 太陽福祉会
- 選定表彰：平成22年度「優秀賞」環境省
ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：釜炊き自然塩
- 取得認証等：－

取組の概要

- 塩づくりに関する遺跡がある地で、紀伊水道の海水を汲み上げ、地域の廃材を燃料とした、化石燃料を使わない釜炊き自然塩づくりに取り組む。
- 商品は直売所、ホテル、飲食店等で販売するとともに、塩を用いた生食パンの製造・販売、学童等を対象とした釜炊き体験等を実施。



地域の遺跡から出土した製塩土器



釜炊き



塩を用いた生食パンやピザ

体制図

社会福祉法人 太陽福祉会
・菜の花作業所

就労継続支援B型事業所
和の杜

御坊市
(ふるさと納税等)

(株)メモリアルウエスト

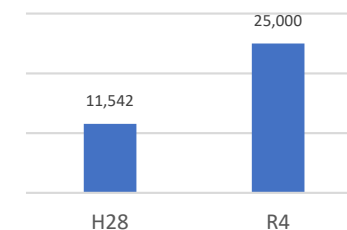
(有)鳥好

...

取組の成果

- 平均工賃は、H28の11,542円から、25,000円(R4)に増加。
- 過去5年の塩の生産量は約3トン、売上は500万円以上を継続して達成。

平均工賃 (円)



所在地 ▶ 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋450-7

連絡先 ▶ TEL : 0738-23-3267 E-mail : kashiwagi@taiyo.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.taiyo.or.jp/>

きっかけ

地域に障害者が日中活動できる居場所がなかったことから、障害者の父兄等を中心としてNPO法人を設立

平成14年

NPO法人菜の花会地域活動支援センターの設立

- 平成14年、障害者の父兄等が中心となってNPO法人菜の花会 地域活動支援センターを設立。
- 地域農家より山林地を無償で借受け、作業場を建設。
- 漁業者の協力により汲み上げた、紀伊水道の海水を釜で炊き上げる自然塩づくりに取り組む。
- 釜炊きの燃料は、地域で増える廃屋の廃材を用いて利用者が薪を作成。



海水の汲み上げ

平成22年

平成22年、御坊市より休止中の給食センターを無償で借り受け、作業場、事務所、売店を開設



釜炊き

令和2年

社会福祉法人 太陽福祉会に経営移管

- 取組の活発化を目指し、NPO法人菜の花会を社会福祉法人太陽福祉会に経営移管。



3重に行う異物チェック

最近の状況

- 塩生産量：約3トン（R4）、売上：500万円（R4）、平均工賃：25,000円（R4）、障害者の就労者数：14名（R4）

取組の発展に向けて

- 利用者の平均工賃は県平均を上回っているが、今後も生産と販路の拡大の取組を目指す。
- 塩づくりの工程で発生するにがり肥料等にするなどの活用を検討する。
- 都市部からの見学者が増えており、釜炊き体験等による都市農村交流の取組を目指す。
- 漁業者に海水の確保に協力いただいております、元気のない地域の漁業を応援するためにも干物等の水産加工の取組を目指す。

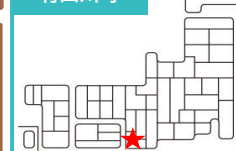


農産物に、にがりを噴霧する

今後の展望

営農条件の悪い畑を活用してみかんや野菜等を生産し、これを用いて喫茶を開催するなど、深刻化する荒廃農地の増加等の課題に対して、地域の関係者と協力しながら地域に根差した取組を進める。

福祉事務所

和歌山県
有田川町

きっかけ

H
24
年

内職やパンの製造・販売を中心の作業所を運営していたが、農作業のセラピー効果や健康増進効果が期待されることから、農福連携の取組を開始。

人を耕す

- 農作業専門支援員の配置、農作業班と出荷(加工・販売)班に分け、道具や作業場の配慮をするなど働きやすい環境作りに努める。
- 栽培技術の習得による収益向上を目指し、JAの農業塾等に参加。
- シルバー人材を活用。働きやすい日数や時間帯などを調整。

地域を耕す

- ヘリポート(かつての小学校の運動場)の草刈りの管理を任される。また、AEDを設置。
- 地域サロン『喫茶はやつき』の定期開催。高齢者対象、無料弁当宅配サービスを実施。
- 担い手が見つかりにくい中山間地の段々畑を活用して、柑橘類、南高梅、山椒、野菜を生産。
- 自園産及び地域の果物を原料としたジャムを商品化。

未来を耕す

- 地域の障害者、高齢者、農家、その他関係者と協力し、課題を共有しながら地域に根差した農園運営に今後も取り組む。
- 利用者の経済的な自立に貢献するため、平均工賃3万円/月以上の継続達成
- 開所の平成24年から5名が一般就労しており、今後も継続して一般就労を支援する。

取組

成果

平均工賃月額

27,195円(R2)
→45,369円(R6)

障害者数

22人(R2)
→21人(R6)

売上高

1,613万円(R2)
→2,166万円(R6)

農地面積

5ha(R2)
→5ha(R6)

- ヤマト福祉財団の実践塾がきっかけで、大阪の作業所など塾生が在籍する県外の作業所とみかんの取引を開始。
- ヤマト福祉財団の助成を活用し、ハウス、柑橘の選果機、ジャム製造機などを整備。
- 利用者の作業のしやすさへの配慮と売上向上を図るため、多品目栽培を改め、少品目栽培を推進。
- 密封包装食品製造業(令和4年)、漬物製造業(令和5年)の営業許可証を取得。
- 地域の特産品(みかん、山椒)の市場価格の上昇を受け売上が大幅に向上。



地域交流の場 喫茶はやつき



温州みかんの収穫

基本情報

設立:H24年 / 農福連携取組開始:H24年

取得認証等:認定農業者(R4年)

主な選定表彰:「ディスカバー農山漁村の宝」(第7回/近畿)
ビジネス・イノベーション部門

主力商品

(農作物)温州みかん等柑橘類、南高梅、山椒、ししとう、
なす、きゅうり

(加工品)地域の果物を用いたジャムやマーマレード

概要

体制図

事業連携機関

- 法人内事業所(カフェ&ベーカリーオリーブ)
- 農協(JAありだ)・JAタウン
- 公益財団法人ヤマト福祉財団
- 日本農福連携協会・農福連携等応援コンソーシアム
- 農業総合研究所など地元企業
- 近隣農家・地域の飲食店
- (一社)和歌山県セルフセンター
- 農福連携関係の福祉事業所
- 有田川町・和歌山県
- 一般消費者
- 等

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所:和歌山県有田郡有田川町尾上13-1

TEL:0737-34-2008

Mail:hayatsuki@iaa.itkeeper.ne.jp

URL:http://www.wasaren.org/hayatsuki/